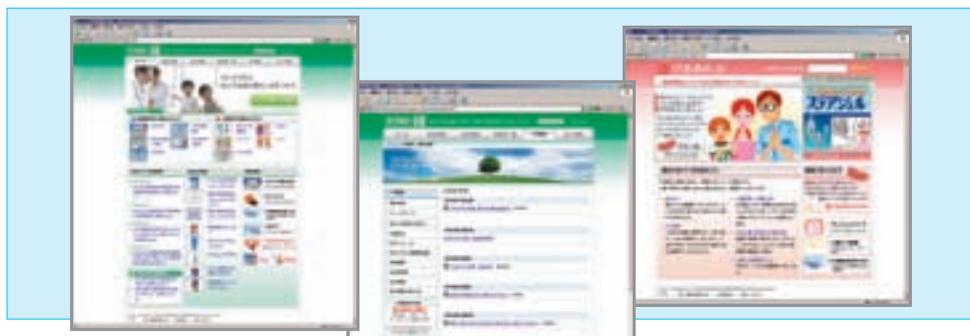


川本産業のホームページもご覧ください。



<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp/>

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
 剰余金の配当基準日 3月31日  
 (中間配当を行う場合は9月30日)  
 定時株主総会 毎年6月下旬  
 単元株式数 1,000株  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社  
 上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部  
 株式会社大阪証券取引所 市場第二部  
 証券コード 3604

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。 (特別口座に記録したままでは、株式を証券取引所で売買することはできません。)

公告方法 電子公告 (<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>)

ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

#### 支払通知書に関してご留意いただきたい事項

「支払通知書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成するものであり、株主さまが確定申告を行う際に必要となる場合があります。当社がお支払いする配当金については、株主さまにお送りしております「配当金計算書」を「支払通知書」としてご利用いただくことができます(但し、株式数比例配分方式を選択された場合については、お取扱いが異なりますので、お取引の証券会社にお問い合わせください)。ご不明な点については、みずほ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。



## 第81期中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

P1……………トップメッセージ  
 P3……………トピックス  
 P4……………製品のご案内  
 P5……………セグメント別事業概況  
 P7……………中間財務諸表  
 P9……………会社概要  
 P10……………株式情報

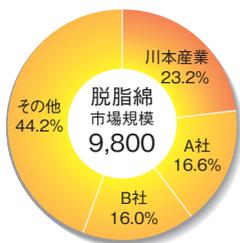
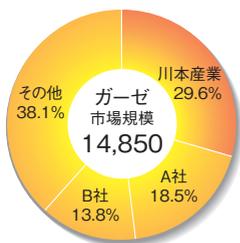




代表取締役社長  
武元 康暉

■ ガーゼ・脱脂綿・包帯

■ 医家向けシェア (単位: 百万円)



資料: 矢野経済研究所 ('08~'09年版) 2007年度シェア

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。平素は格別のご支援ご愛顧を賜わり厚くお礼申し上げます。さて当社第81期中間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)事業年度を終了いたしましたので、事業の概況並びに主要事項をご報告申し上げます。

**Q** 当中間期における業績は  
いかがでしたでしょうか

**A** 感染予防に関連する製品および商品ともに  
前期の特需の反動があり、売上高は減少いたしました

わが国経済は、一部で景気の回復基調はみられるものの、全体的な世界経済の低迷や為替相場における円高進行により、国内経済の景気先行きに対する不透明感が続いております。

当医療衛生材料業界におきましても、依然として厳しい経営環境が継続しております。

このような状況下で当社の当中間期の業績は、重点販売製品の売上高が伸び悩んだことと、前期の新型インフルエンザ流行による感染予防に関連する製品および商品の特需の反動による減少もあり、売上高は150億12百万円(前年同期比9.3%減)と大きく減少いたしました。

利益面では、売上高減少に伴う利益額の低下に、製品売上高減少による売上総利益率の低下の要因も加わり、売上総利益は27億80百万円(同11.9%減)となりました。

経費面では販売費及び一般管理費はほぼ前期並みの26億83百万円(同0.5%増)となりました。これらの結果、営業利益は96百万円(同80.1%減)となりました。

営業外費用では、当中間期末の円高の影響で為替差損が25百万円、デリバティブ評価損(為替予約評価損)が1億3

百万円発生いたしました。これらの結果、経常損失は60百万円(前年同期は3億70百万円の利益)となりました。

また、特別利益では、賃貸ビル売却による固定資産売却益が52百万円発生し、特別損失では、投資有価証券評価損が18百万円、新会計基準適用により「資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額」が10百万円発生いたしました。これらの結果、中間純損失は34百万円(前年同期は2億11百万円の利益)となりました。

**Q** 下期の重点施策と  
通期の展望をお話ください

**A** 積極的な自社製品の販売と生産体制の効率化により、  
売上高および利益面の向上策を実施してまいります

下期につきましては、厳しい環境は当面継続すると見込まれるなか、引き続き重点施策の「マーケティング力を活かした製品開発」、「生産性の効率化推進」、「自社製品の販売拡大」、「販売・物流体制の効率化推進」、「海外向け販売拡大のための体制整備」の5点に注力し、そして全社をあげて効率的な経費支出を推進し、一層の利益面の向上策を進めて、安定した収益性の確立に努めてまいります。

通期業績予想につきましては、売上高314億円(前期比3.1%減)、営業利益4億93百万円(同31.6%減)、経常利益2億99百万円(同57.1%減)、当期純利益1億65百万円(同59.5%減)を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

■ 売上高



■ 経常利益



■ 中間(当期)純利益



## 鏡視下臓器圧排用スポンジ「エンドラクター®」および「エンドラクター®TypeJ」は多数の学会発表があり、好評を博しました

「エンドラクター®」および「エンドラクター®TypeJ」は、鏡視下手術時に、12mmポートから容易に挿入でき、体腔内で吸水・膨潤させ、視野の障害となる臓器の圧排に使用する圧縮したスポンジ製品です。

- ・「第110回 日本外科学会定期学術集会」  
平成22年4月8日（木）～10日（土）開催
- ・「第65回 日本消化器外科学会総会」  
平成22年7月14日（水）～16日（金）開催
- ・「第23回 日本内視鏡外科学会総会」  
平成22年10月18日（月）～20日（水）開催

当製品は、上記学会等で多数の発表があり、好評を博しました。



「エンドラクター®」

一般医療機器



「エンドラクター®TypeJ」

一般医療機器

## サニーポ®洗浄除菌ワイパー

環境表面清拭用ワイパー  
「サニーポ® 洗浄除菌ワイパー バケツタイプ」  
(平成22年秋新発売)

### ■製品特長

- ・異なる2種類の界面活性剤配合で汚れを浮かして溶かします。
- ・優れた除菌力の第4級アンモニウム塩（塩化ベンザルコニウム+DDAC）を配合いたしました。
- ・医療用の器具や機器の清拭に最適です。
- ・素材に与える影響が少なく、金属やプラスチックへの使用も安心です。
- ・ふき取り対象や保管場所によってボトルとバケツが選べるようになりました。

※ボトルとバケツは基布のサイズ・素材が異なります。



## マウスピュア® 吸引歯ブラシ・マウスピュア® 吸引スポンジ

「マウスピュア® 吸引歯ブラシ」・  
「マウスピュア® 吸引スポンジ」  
(平成22年秋新発売)

### ■製品特長

- ・吸引器に接続して、片手で吸引+歯みがき/吸引+口腔清掃が同時にできます。誤嚥のリスクが高い方のケアに最適です。
- ・持ち手部分の吸引調節口を指で押さえると吸引機能がON状態になり、指を離すとOFF状態になり、吸引調節を手元で簡単に行うことができます。



## 鼻腔拡張テープ

「鼻腔拡張テープ 透明」・  
「鼻腔拡張テープ こども用」  
(平成22年秋新発売)

### ■製品特長

- ・「レギュラー」・「メントール」・「シトラスラベンダー」に新発売の「透明」・「こども用」を加えて、5タイプをラインナップ。お好みやシーンに合わせて使い分けできます。
- ・透明は、目立ちにくく、外出時のテープが気になる方に最適です。無香タイプ。
- ・こども用は、お子様の小さな鼻にフィットします。鼻がつまるときや就寝時に最適です。無香タイプ。



■セグメント別売上高

- メディカル部門(国内向け)
- メディカル部門(海外向け)
- テキスタイル部門



■品目別売上高

- 繊維製衛生材料
- 薄織物繊維加工品
- 健康・生理用品
- 医療用品
- 育児・トイレタリー用品
- 介護用品
- その他



メディカル部門 (国内向け)

製品・商品ともに感染予防製品の落ち込みの影響を受けて、売上高は減少いたしました

製品では、重点販売製品の「口腔ケア用品」の販売強化によって介護用品は増加いたしました。医療用ガーゼを中心とした衛生材料の減少傾向は継続いたしました。また医療用品は、感染予防関連製品が前期の特需の反動により大幅に減少、そして重点販売製品の「セットパック製品」(手術・処置・検査の衛生材料・医療用品を組み合わせた滅菌済み製品)も伸び悩みにより減少いたしました。

商品では、育児・トイレタリー用品はほぼ前期並みに推移いたしました。製品同様に感染予防関連の売上高が減少したことにより医療用品は減少いたしました。

これらの結果、売上高は134億円(前年同期比9.8%減)となりました。



「セットパック製品」

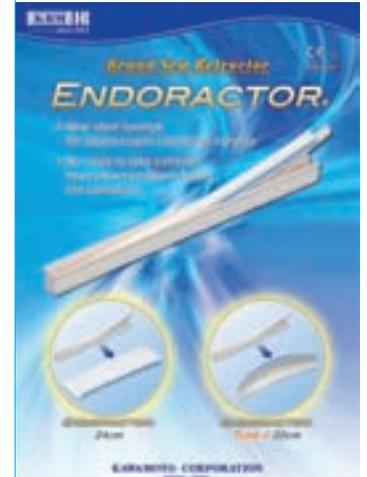
メディカル部門 (海外向け)

円高の進行などのマイナス要因のなか、幅広い市場に対して積極的な販売活動を行ってまいりました

海外向け製品では、円高の進行や欧州・米国の信用不安による世界経済の低迷などのマイナス要因のなかで、国内製の衛生材料・医療用品・医療器械にアジアで調達した自社ブランド製品を加えて充実をはかり、中近東を中心にアジア・欧米・アフリカ・中南米などの幅広い市場に対して積極的な販売活動を行ってまいりました。

これらの結果、売上高は6億38百万円(同3.5%増)となりました。

また、ドイツでの世界規模の医療機器展示会「MEDICA」に継続出展し、引き続き付加価値の高い衛生材料などの宣伝・営業活動の強化をはかってまいります。



「エンドラクター」 海外向けカタログ

テキスタイル部門

売上高は、ベビー用衣料品の販売競争激化の影響により前期実績を下回りました。

テキスタイル部門では、ベビー用衣料品は有力量販店との関係強化に努めてまいりましたが販売競争激化により前期実績を下回り、素材販売・てぬぐい・ねまぎの市場縮小傾向が継続していることも影響して、売上高は9億73百万円(同10.2%減)となりました。



「ベビー用衣料品」

■ 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前中間期 (平成21年9月30日現在)	当中間期 (平成22年9月30日現在)	前期 (平成22年3月31日現在)
① 流動資産	10,454,488	10,412,660	9,879,724
② 固定資産	6,246,472	5,206,404	6,140,497
有形固定資産	5,008,108	4,022,746	4,920,272
無形固定資産	50,198	45,202	47,416
投資その他の資産	1,188,165	1,138,455	1,172,809
資産合計	16,700,960	15,619,064	16,020,222
③ 流動負債	9,055,012	9,065,931	8,669,803
④ 固定負債	3,285,364	2,136,440	2,821,197
負債合計	12,340,376	11,202,371	11,491,001
株主資本	4,278,284	4,349,153	4,431,348
資本金	883,000	883,000	883,000
資本剰余金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
資本準備金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
利益剰余金	2,205,432	2,276,839	2,358,900
利益準備金	86,100	86,100	86,100
その他利益剰余金	2,119,332	2,190,739	2,272,800
配当引当積立金	5,000	5,000	5,000
別途積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	1,114,332	1,185,739	1,267,800
自己株式	△ 2,745	△ 3,282	△ 3,149
評価・換算差額等	82,300	67,539	97,873
その他有価証券評価差額金	82,300	67,539	97,873
純資産合計	4,360,584	4,416,693	4,529,221
負債及び純資産合計	16,700,960	15,619,064	16,020,222

① 流動資産

当中間期の流動資産は前期末に対して5億32百万円増加いたしました。

「現金及び預金」が2億55百万円増加、「受取手形」・「売掛金」が1億23百万円増加、「たな卸資産」が2億16百万円減少、「前払費用」が12百万円増加、「未収入金」が売掛債権回収業務でファクタリングの採用増加により3億42百万円増加、「貸倒引当金」が13百万円減少したことが主な要因です。

③ 流動負債

当中間期の流動負債は前期末に対して3億96百万円増加いたしました。

「支払手形」・「買掛金」が37百万円増加、「短期借入金」・「1年内返済予定の長期借入金」・「1年内償還予定の社債」が7億10百万円増加、「未払金」が厚生設備・製造設備等の支払完了により46百万円減少、「未払法人税等」が79百万円減少、「前受金」が賃貸ビル売却に伴う前受金の会計処理が完了したことで98百万円減少、「1年内返済予定の預り保証金」が1億48百万円減少、「賞与引当金」が21百万円増加したことが主な要因です。

② 固定資産

当中間期の固定資産は前期末に対して9億34百万円減少いたしました。

有形固定資産では、賃貸ビルの売却の影響もあり「建物」・「構築物」・「機械及び装置」が5億27百万円減少、「土地」が3億38百万円減少、「リース資産」が27百万円減少、そして投資その他の資産では、「投資有価証券」が57百万円減少、「繰延税金資産」が19百万円増加したことが主な要因です。

④ 固定負債

当中間期の固定負債は前期末に対して6億84百万円減少いたしました。

「社債」・「長期借入金」が7億77百万円減少、「為替予約」が1億3百万円減少したことが主な要因です。

■ 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	16,557,686	15,012,302	32,404,247
売上原価	13,402,182	12,232,229	26,329,723
売上総利益	3,155,503	2,780,072	6,074,524
販売費及び一般管理費	2,671,078	2,683,710	5,354,194
営業利益	484,425	96,362	720,329
営業外収益	120,935	41,300	229,789
営業外費用	234,783	198,040	252,539
経常利益又は経常損失(△)	370,578	△ 60,378	697,579
特別利益	4,727	67,210	31,124
特別損失	6,816	29,775	16,301
税引前中間(当期)純利益又は税引前中間純損失(△)	368,488	△ 22,943	712,401
法人税、住民税及び事業税	156,827	10,477	245,975
法人税等調整額	166	693	59,503
中間(当期)純利益又は中間純損失(△)	211,494	△ 34,114	406,922

■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 114,144	△ 290,748	444,485
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,437	195,834	△ 21,596
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 75,039	△ 143,949	△ 428,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,548	△ 5,330	△ 1,127
現金及び現金同等物の増減額	△ 219,170	△ 244,193	△ 6,300
現金及び現金同等物の期首残高	1,029,428	1,023,128	1,029,428
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	810,258	778,934	1,023,128

■ 会社概要

社 名 川本産業株式会社  
 設 立 昭和6年1月  
 資 本 金 883,000,000円  
 従 業 員 数 635名(内、契約雇用者数125名)

■ 役員

代表取締役社長 武 元 康 跡  
 代表取締役副社長 川 本 井 武  
 ※専務取締役 向 安 藤 年 茂  
 ※取締役 佐々木 功 雄  
 ※取締役 佐々木 邦 雄  
 常勤監査役 北 原 邦 廣  
 常勤監査役 川 本 新 史  
 監査役 日 上 俊 彦  
 監査役 山 本 久 彦  
 (注) 監査役日上俊彦、山本久彦氏は社外監査役であります。  
 ※印の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 執行役員

執行役員 塩 野 宗 一  
 執行役員 岡 本 博 巳  
 執行役員 横 田 茂  
 執行役員 岡 田 清  
 執行役員 川 本 治 暁

■ 事業所

● 本 社 〒540-0022  
 大阪市中央区糸屋町2-4-1  
 TEL.06-6943-8951

- 支 店  
 ● 東 京 支 店 東京都杉並区阿佐谷北6-1-6
- 営業所  
 ● 仙 台 営 業 所 宮城県仙台市泉区泉中央3-18-4 オフィス21泉4F  
 ● 千 葉 営 業 所 千葉県市川市大和田4-19-2  
 ● 埼 玉 営 業 所 埼玉県加須市花崎5-31-1  
 ● 日 本 橋 営 業 所 東京都中央区東日本橋3-7-19 友泉東日本橋駅前ビル4F  
 ● 名 古 屋 営 業 所 愛知県名古屋市中区城西3-12-12  
 ● 京 都 営 業 所 京都府京都市南区上鳥羽岩ノ本町82-1  
 ● 堺 営 業 所 大阪府堺市堺区大浜南町2-5-8  
 ● 南大阪第1・第2営業所 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20  
 ● 神 戸 営 業 所 兵庫県神戸市東灘区住吉南町3-3-5  
 ● 広 島 営 業 所 広島県広島市中区白島中町2-2  
 ● 福 岡 営 業 所 福岡県福岡市博多区博多駅東3-1-8 ヒロショービル2F
- 出張所  
 ● 高 松 出 張 所 香川県高松市多肥下町21-1 香西ハウス1F
- 駐在所  
 ● 札 幌 駐 在 所 北海道札幌市東区北26条東8-2-1 サンシャイン85 208号  
 ● 鹿 児 島 駐 在 所 鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-68-1
- 工 場  
 ● 大 阪 工 場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20  
 ● 埼 玉 工 場 埼玉県加須市花崎5-31-2
- 物 流  
 ● 大 阪 和 泉 物 流 セ ン タ ー 大阪府和泉市伏屋町5-5-12

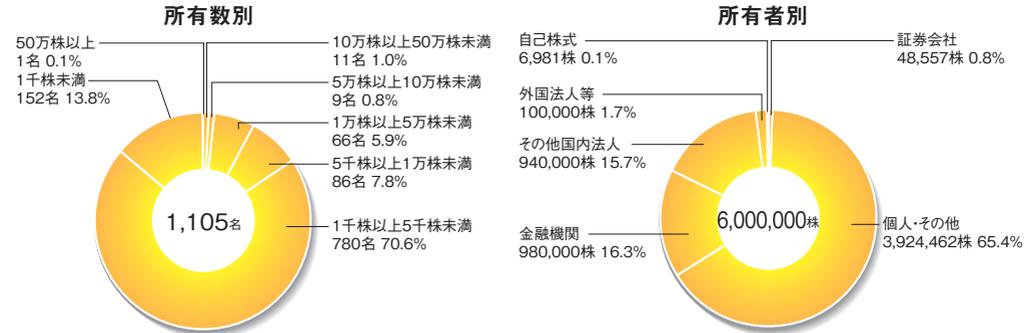
■ 株式の状況

発行可能株式総数..... 16,000,000株  
 発行済株式の総数..... 6,000,000株  
 株主数..... 1,105名

■ 大株主

株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
巴株式会社	600,000	10.0
川本社員持株会	429,250	7.2
株式会社みずほ銀行	249,500	4.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,500	4.2
伊藤忠商事株式会社	196,000	3.3
株式会社りそな銀行	175,000	2.9
川本 洋之助	170,800	2.8
カワモト取引先持株会	159,000	2.7
川本 晴男	153,600	2.6
川本 武	143,000	2.4

■ 株主分布状況



■ 株価および売買高の推移

